

# ティーチング・ポートフォリオ



高橋 うらら

東京都市大学 人間科学部 児童学科

作成日 2021年11月14日

## 1. 責務

東京都市大学人間科学部児童学科に所属し、教育・研究活動を行っている。

### 1-1 担当科目

単独担当科目	共同担当科目
「人間と健康」1年卒業必修（講義） 「健康と運動（2）」1年資格必修（実技） 「保育内容の理解と方法（身体表現）」2年資格必修 「子どもの身体表現指導法」3年資格必修（演習） 「保育内容健康指導法」3年資格必修（演習） 「特別研究」3年（研究室学生対象）卒業必修 「卒業研究」4年（研究室学生対象）卒業必修	「SD PBL(2)」2年卒業必修（演習） 「子どもの保健と健康」2年資格必修（演習） 「児童学入門」1年卒業必修（講義）

### 1-2 研究室

子どもの運動・身体表現研究室には、毎年3年生8名程度4年生8名程度が在籍し、研究活動と並行して、学園祭や夢祭で地域の子どもたちと身体表現を通して関わる活動をしている。また、高橋が講師をつとめるワークショップ等で、研究室生をアシスタントとして起用し、学生自身の経験を積む場を提供している。さらに、4年生は卒業間近の時期ではあるが、毎年2月に開催される、公益社団法人日本女子体育連盟主催の「未来世代の研究発表会」に参加し、卒業研究およびダンスの発表をしている。

### 1-3 課外活動

等々力キャンパスに拠点を置く、ダンス部 UP BEAT に立ち上げ当初から関わっている。2017年から学外で単独公演も開催している。コロナ禍でも SNS 等を活用し、発信を続け、2021年度は学内で新入部員が最も多かった。また、2021年度五島育英基金奨学金を受けている。

### 1-3 校務分掌

2020年度までFD推進センターに所属し、学生FDの立ち上げに携わった。学科内担当は過去には、教務、学生支援、キャリア支援を担当したが、ここ数年は入試広報を担当し、特に2020年、2021年はオンラインオープンキャンパスの学科独自プログラムを学生スタッフと協働して作り上げた。また、2021年度は児童学科公開講座の運営に携わっている。

## 2. 理念

人間科学部児童学科の3ポリシーをうけ、

一つ目は、豊かな人間性に根差した学際的教養、横断的基礎知識および専門的知識や技術を持つ人材の育成である。

理念の二つ目は、理論と実践を総合的に応用する柔軟な思考力で課題探求、問題解決できる人材の育成である。

三つ目はプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力に長けている人材の育成である。

### 3. 方法

#### 3-1 方針

方針の一つ目は、「基礎知識・技能を確実に身に着ける」である。子どもや保護者に寄り添う事のできる保育者になるためには、広い視野で物事を客観的に捉える冷静さと一人ひとりの感情に寄り添う情熱を兼ね備えているのが理想だが、そのためには個々人に余裕が無くては難しい。その余裕を生む近道は、基礎知識・技能の習得であると考えます。

方針の二つ目は、「豊かな教養の獲得；何事にも興味関心を持つ」である。幼児教育に携わる者にとっては、一つのことを突き詰めることももちろん大切ではあるが、様々な事象をジブンゴトとして捉え、身近な事に置き換えて考えることが大切であると考えます。

方針の三つ目は、「理論と実践を総合的に応用する」である。いったん自分自身の身体を通して来たコトバには他者を説得する力があると考えます。

#### 3-2 方法

実技科目に関しては、個々人で技能向上を目指す時間と仲間との見せ合い（見合い）、教え合いの時間を必ず確保する。見せ合い（見合い）では、他者の表現をまずは受け止め認め合うことを大切にする。

実技系演習科目におけるオンライン受講生への配慮（2020年度学生アンケートの指摘を受け）：2020年度はオンライン受講生から多くの不満の声が寄せられた。ハイブリッド型の限界を感じ、2021年度は実技系演習科目の授業配信を工夫した。同時双方向型では対面受講生との交流を一定時間設けるが、無理にハイブリッド型を続行せず、オンライン受講生と対面受講生の内容を分けることとした。オンライン受講生には授業内容を撮影するだけでなく、ポイントをテキストで提示した。動画編集作業には多大な時間を要するが、同時に自身の授業の振り返りの機会となった。

・理論と実践を総合的に応用するために、「例えば・・・」と、何かに例える、例題を挙げることを意識する。これは、学生にも求めている。

### 4. 成果

身体表現分野は、保育現場でも最も実施が難しいとされている。現職保育者でも敬遠しがちな活動であるが、実習で挑戦する学生が、他の養成校より多いと実習先から報告を受けた。

子ども向けダンスや身体表現遊び、パラバルーンや運動遊び等々、高橋の研究室以外の研究室活動でも積極的に取り組まれている。

毎年2月に開催される、公益社団法人日本女子体育連盟主催、「未来世代の研究発表会」に研究室全員で参加し、保育・幼児教育の視点で、身体表現や運動について発表を続けている。この会は、主に、体育・スポーツ分野の学部・学科を有する大学が参加しているため、保育・幼児教育分野の参加は、本学学生にとっても、他大学学生にとっても、良い刺激があると主催者側から評価されている。

### 5. 目標

#### 5-1 短期目標

- ・実技科目：ハイブリッド型授業であっても、対面受講希望者を出来るだけ100%に近づける。
- ・講義・演習科目：大人数の講義科目であっても、受講生が参加している実感の持てる授業を作る。

2021 年度前期科目では、感染拡大を受け、講義科目は途中からオンラインに戻る学生が多かった。しかし、オンラインに戻るのは感染拡大だけが理由ではないことが推察された。「大学に来たい授業」を目指す。

## 5-2 長期目標

- ・感性豊かな保育者の育成に「身体」「表現」をキーワードに貢献する（保育者自身の運動嫌い、即興的身体表現嫌いをなくす）。
- ・子どもたちを心からリスペクトし常に理論と実践をバランスよく学び続ける保育者育成に貢献する。体験に裏打ちされた言葉、一度、自身の身体を通してきた言葉には説得力がある。この「感覚的」「体験的」知見を他者に伝えられる人材を育成したい。

**【添付資料】** \*オンライン公開版については資料の添付は省略させていただきます。

1. 授業シラバス
2. 実技授業記録動画
3. 履修者による授業評価アンケート
4. (公社) 日本女子体育連盟主催 「未来世代の研究発表会」抄録集
5. 学会発表資料
  - ・日本保育学会第 73 回大会 井中あけみ氏（豊橋創造大学）朝元 尊氏（アソカ学園）と共同研究  
「自発的な表現を不自由にしている保育者の意識について  
—即興的身体表現と音楽表現の調査から—」
  - ・日本保育学会第 74 回大会 井中あけみ氏（豊橋創造大学）朝元 尊氏（アソカ学園）と共同研究  
「創造的表現活動の実践について —保育者による音楽と身体在即興的表現活動から—」 ほか